

意識の流れをつくる活動を+ (プラス)



○ 一 導入場面

突然に「整数を2つに分けよう」という投げかけは、感心しない。
なぜ2つなのか・・・その意識の流れをつくる活動をプラスする必要がある。

◇ 生活の中で、事象を2つに分類する場面を想起させる活動を設定する。

<意識の流れ>

○ 2つになかま分けする場面はたくさんあるよ。(3つの分類は少ないよ)

- ・人なら・・・男と女、大人と子ども
- ・凶形なら・・・平面と立体
- ・生物なら・・・水中と陸上
- ・海なら・・・暖流と寒流
- ・さらに・・・上下、左右、北半球と南半球

◎ 整数の世界も2つに分けられるのかな? 「まず2つに分けてみよう。」

○ 一 展開場面

1~20程度の数を代表として自由に分類させる。その後、どの分類方法が的確なのか・・・数を増やしながら判断させていく活動を設定する。

◇ それぞれの分類方法のよさや限界を交流させる活動を設定する。

<意識の流れ>・・・数が平等になり、どんな数にも通用する分類方法にしよう!

- ① 1~10と11~20 (真ん中を見つけて) → 全体の数が分からないと×
- ② 2、4、6、8、10、・・・20と、
1、3、5、7、9・・・19 (2とばしの数とそれ以外) → 奇数・偶数で○
- ③ 1~9までと10~20 (1けたと2けた) → けた数が増えると×

○ 一 終末場面

整数全体を一つの集合としてとらえさせ、あまりが等しい整数の部分集合で類別させる・・・その意識の流れをつなぐ活動をプラスする必要がある。

◇ 奇数・偶数に分類するアイデアを活用して、整数を3つ、4つ・・・に分類させる活動を設定する。【2つに分けた数は日常生活に役立つから名前をつける】

<意識の流れ>・・・様々な場面に役立つ分類方法だ!

- 3つに分類・・・3で割って余りが、①0、②1、③2になる整数
- 4つに分類・・・4で割って余りが、①0、②1、③2、④3になる整数
- 5つに分類・・・①こぶた ②たぬき ③きつね ④ねこ ⑤いぬ ⑥こぶた ⑦たぬき・・・
13番目の動物は・・・ $13 \div 5 = 2$ あまり3で 答えは きつね
26番目の動物は・・・ $26 \div 5 = 5$ あまり1で 答えは こぶた となる。
- 7つに分類・・・7で割った余りの数 → 曜日が判断できる。